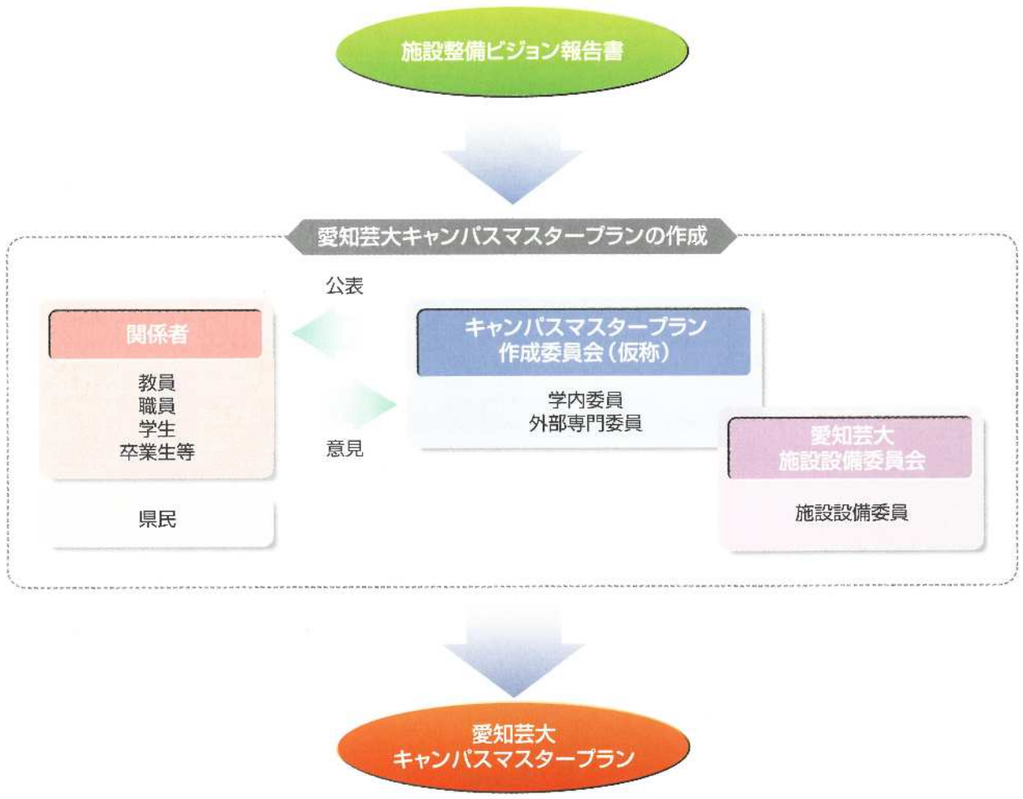
4 今後の施設整備の進め方

「キャンパスの整備方針」に基づきながら、施設整備の全体計画（キャンパスマスタープラン）を策定し、計画的な整備を行っていきます。

キャンパスマスタープランの策定にあたっては、設計や建築に関する専門家を加えた組織を設置して検討を行います。また、教員や学生等の意見も反映させていきます。



愛知県立芸術大学

〒480-1194（所在地記載不要）
愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-114
TEL:0561-62-1180　FAX:0561-62-0083

「愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書」について

大学存在の意義は、教育及び創作・研究の充実にありますが、同時に、つねに社会に開かれたものであることも大切です。40数年の歴史と伝統の上に花開いた、本学の誇るべき成果・可能性などを学内だけにとどめず社会に広め、あるいは社会と協力して、新しいものを作り上げていくことが求められています。このため、芸術文化面で地域に貢献することや海外の大学や研究施設との交流を積極的に進めています。

大学の活動の場であるキャンパスは、主要な建物が開学時の昭和40年代に竣工したもので、老朽化に加え、耐震性能、バリアフリー、遮音・防音性能の不足、学生数の増加による狭隘化、作品の大型化による創作スペース不足など施設面・機能面での問題が顕在化しており、教育研究活動に支障をきたしています。このため、愛知県は、緊急度の高い施設から順次整備していくことを決め、新音楽学部棟の整備に着手しました。

愛知芸大のキャンパスは、日本を代表する建築家である吉村順三氏の設計によるもので、その建築は高く評価されており、キャンパスと建物群がDOCOMOMO Japan の125選のひとつに選定されました。

大学の使命である教育研究機能の充実強化とすばらしいキャンパスの継承・発展を図るためには、将来を見据えたキャンパス全体の整備計画の策定が不可欠です。このため、大学関係者だけでなく外部の有識者や学生・卒業生の代表等も交えた「愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会」を設置して、検討してきました。

本報告書は、ビジョン検討会での検討結果をまとめたものであり、今後、愛知芸大の整備を進める上での基本方針となるものです。なお、本年3月の東日本大震災の発生を受け、東海地震や東南海地震など大規模地震対策の重要性がますます高まっており、学生・教職員の「安心・安全」の確保を最優先に整備を進めていかなければならないと考えております。関係する皆様方から愛知芸大の整備についてのご理解をいただき、愛知芸大のますますの発展にご支援賜りますことをお願い申し上げます。

平成23年5月

愛知県立芸術大学学長

愛知県立芸術大学

「愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書」の概要

1 現キャンパスの評価と継承

現キャンパスは、中央の広場とそれを囲む建物群が「キャンパスのコア」として存在しており、最も重要な場所です。また、美術と音楽をつなげている軸や、建物群によって生成される「間の空間」が互いにネットワークを形成しています。
現キャンパスを継承しながら整備していくにあたっては、次の点に留意する必要があります。

- **中央の広場を囲む建物群の意匠的特徴、配置などの変更は避ける。**
- **音楽と美術の東西をつなぐ軸を、今後も継承発展させていく。**
- **新たな空間を造るときは、「間の空間」のネットワークにつなげる。**

2 キャンパスの整備方針

現キャンパスの評価を踏まえ、教育研究活動の充実強化や今後の発展のために必要な整備の方向性及び価値あるキャンパスの建物群を継承していくための方針を定めました。

[基本方針]

1. 大学の教育研究活動の推進に貢献する環境づくりに努める。
2. 教育研究活動の高度化・多様化・国際化など、大学の発展に対応できる環境とする。
3. 自然環境に配慮するとともに、価値あるキャンパスや建物群のあり方を継承し、地域に開かれた大学とする。

[建物の整備方針]

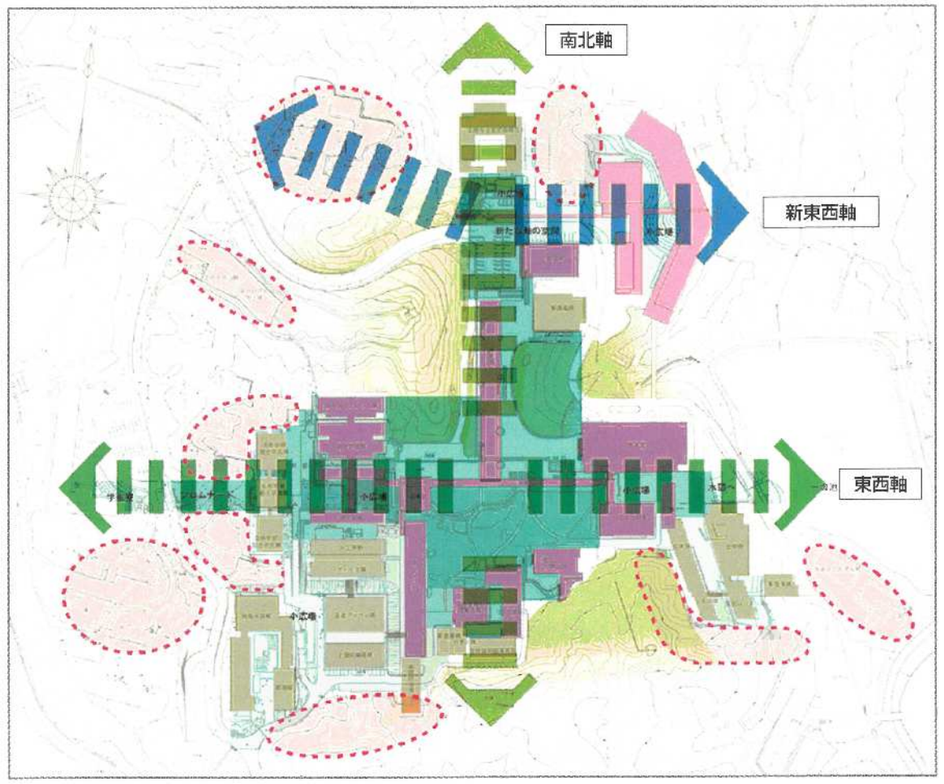
1. キャンパスのコアを囲む建物群は改修を原則とし、適宜、用途変更して活用する。
2. 機能・面積が不足する場合は、キャンパスの景観と自然環境に配慮し、増築や改築・新築する。
3. 整備にあたっては、耐震性能の確保とバリアフリー化を図る。

[キャンパスの保全方針]

1. 中長期のキャンパス保全計画を策定し、適切な維持管理に努める。
2. 教育研究活動の変化に対応していくため、キャンパスの利用形態を継続的に見直す。
3. 植生調査等によりキャンパス内の生態系を把握し、自然と共生したキャンパスづくりを行う。

3 キャンパス活用の方向性

キャンパスの整備方針に基づき、可能な限り現在の建物を活用しつつ、施設の拡張が必要な場合は外側に展開すべきであるとして、拡張可能なエリアを次のとおり設定しました。



新音楽学部棟
拡張可能なエリア
間の空間を生成する建物
キャンパスのコアを囲む建物群
重要度の高い 間の空間
間の空間

南北軸:キャンパスの中心軸。アプローチから大学の中心へ導く主導線。
東西軸:美術と音楽をつなぐプロムナード。その先には美しい眺望が続く。
新東西軸:新規音楽系施設、美術系施設を結ぶ新たな軸。